

## (第6期) 第8回さいたま市公民館運営審議会 議事録

### 1 開催日時

平成25年1月22日(火) 午後1時45分から午後3時30分まで

### 2 開催場所

生涯学習総合センター 9階学習室2

### 3 出席者名

〈委員：10名〉

- ① 楠谷 忠洋 委員長
- ② 青島 裕子 委員
- ③ 五十嵐 健一 委員
- ④ 柿塚 一二三 委員
- ⑤ 加藤 久美子 委員
- ⑥ 久世 晴雅 委員
- ⑦ 鶴見 清一 委員
- ⑧ 船木 正子 委員
- ⑨ 青木 光美 委員
- ⑩ 長岡 綾子 委員

〈事務局：6名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 中川 晴美
- ② 副館長 細見 俊孝
- ③ 主幹 小川 栄一
- ④ 主幹兼事業・企画係長 森田 隆之
- ⑤ 事業・企画係主査 斉藤 明彦
- ⑥ 事業・企画係社会教育指導員 橋本 佐度子

### 4 開 会

出席状況の確認、第7回審議会議事録の承認を経て議事に入った。

### 5 議 題

- (1) まちづくりの視点に立った公民館事業のあり方について

### 6 配布資料

- (1) 前回(第7回公民館運営審議会)のまとめ(資料1)

- (2) 講座アンケート満足度（資料2）
- (3) 公民館職員アンケート（案）（資料3）
- (4) 公民館運営審議会審議資料（様式）（資料4）
- (5) まちづくりの視点に立った公民館事業のあり方について（資料5）

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 会議

- ・会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10 審議内容

- (1) 事務局より、資料1に基づき、前回（第7回公民館運営審議会）のまとめを説明

楠谷委員長	ただ今諮問における観点、まちづくりの視点に立った公民館事業の在り方について事務局より説明がありました。委員の皆さんのご意見をお願いしたいと思います。
船木委員	公民館職員アンケート案について、どれも職員なら考えること、こういうアバウトな質問ではなく、もう少し実際に役立つというか、行動とか具体的なことを書いてほしいと思います。
青島委員	私もこのアンケート案について、この案ですとこれは全部大事で、いらないうものがないと言えますので、アンケートの仕方を、順位づけするとか、点数化するとか、記述式にするとかした方がいいと思います。全部大事なことです。具体的に書いてもらって、それを事務局でまとめて整理して出してほしいと思います。
久世委員	これは案で、まだ出してないですよ。館長は全部丸をつけるでしょう。どうですか。
青木委員	やはり具体的にどうしていくかという段階に入っていると思いますので、皆さんの個別の意見を聞いて、それをいかに反映させて聞くかということ。大事かというよりも、今足りないことは何か、本当に対処したいことはどれかということを知りたいので、順位をつけるやり方はいいと思います。
鶴見委員	ここに書いてあること、これ全部必要なことです。これは、館長さんがみんなを指導し、みんなで協力してという内容が全部入っていると思うんです。当たり前なことだと思います。たとえば6番の職員の士気、やる気、これなどはなかったら困りますので、アンケートとしては、やはりもっと具体性がほしいです。アンケートは全員にするのですか。館によって職員数も違うと思いますし、対象はどのようにするのでしょうか。

森田主幹	対象は館長も含めての職員になると思います。
加藤委員	対象は、公民館の職員全員にやってほしいです。職員の意識喚起という意味で、アンケートは意味あると思います。公民館職員だけでなく、生涯学習振興課、関連部局にまで広げてほしいと思います。4と5に書いてある情報提供について、市民に情報提供するにあたって心がけていることとか、どういうふうに考えているかということを知ってもらったほうがいいと思います。
楠谷委員長	事務局で何かありますか。
森田主幹	アンケートについては再考させていただいて、順位をつけるやりの方がよろしいのか、見直しをかけたいと思います。
青木委員	順位ということですけど、できれば、自分が今力を注いでいること3つ、必要としていること3つをあげて、その3つに対して具体的に取り組んでいることを箇条書きしてもらいたいと思います。
鶴見委員	私もその方がいいと思います。その方が出てきた内容に公民館の特性が出ていいと思います。 質問ですが、色々違った分野から来る職員さんに対して、年度当初、訓示か何かすると思いますが、職員の意識ってどこで芽生えるんでしょう。
森田主幹	年度当初、公民館職員として初めての職員を対象に新任職員研修で、公民館や社会教育の基本的なことをテーマに大学の先生などにお話ししたいと思います。
青島委員	今のお話で私は大学での授業評価を思い浮かべます。大学ではすべての授業、先生に対して学生から2つの視点で評価をとります。授業、先生に、注文をし、点数をつけます。そして学生自身にも、あなたはどうか、と問いかけます。公民館職員にも働いている公民館の評価はどうか、というのと同時に、あなたはどういうことに力をいれていますか、どういうことをやっていますか、という2つの視点から書かせる、聞き出すと、もう少し色々なことが浮かび上がってくると思います。
鶴見委員	反論になるかもしれませんが、私は元教員です。長い間教壇に立っていると、大事なことというのは、教員と生徒の人間関係が根本にないとうまくいかないと感じています。色々なテクニック、スキルの的なものを書くとする、人間関係的なものは書きづらいので、二次的になりやすいということを経験しました。公民館職員にどうしてほしいかという、利用してくれる方たちが使いやすいようにと徹してもら、そういう人間関係的なものを重視してしかるべきと思います。
森田主幹	アンケートについては、公民館で力を入れていることを1～3位まで選んで具体的な内容を書いてもらう、あとは、それ以外で、まだ手をつけていないことで、これから必要であるということについて、具体的内容を含めて1～3位くらいまで書いていただくという方法でいいでしょうか。
加藤委員	少し違うと思います。委員は、公民館職員がどういうモチベーションで仕事をしているかということを知っています。どういう点に力を注いでいるかとい

	うのが抜けてしまいます。職員の意識について、モチベーション、どういった気持ちで仕事に向かっているかという回答が得られないと思います。
細見副館長	ここで、設問を3つに分けたいと思います。1つ目は、現状について、どんなことに力を入れて職員は従事しているか、2つ目は、それに対する評価、どう考えているか、自分たちのやっていることが、自分たちで評価してどうなっているか、3つ目は、最終的には、これから、より公民館をよくするためにはどうすればいいか。1つ目、2つ目はある程度選択肢方式、3つ目は記述式でまとめ直させていただきたい、と事務局では思っております。
久世委員	公民館のこれからのあり方について、それぞれの地域の公民館で講座内容の充実はどうしているか、委員なりの答えを導き出してくる、それをみんなで話して、講座内容をこうすべきだろうとしていく、職員に対して色々聞くんじゃないかと、我々が「公民館はこうなくてはいけない」ということを言う必要だと思えます。今回の「まちづくりの視点に立った公民館」を考えるためにも14項目のアンケートを審議委員に書いてもらうのを宿題にしましょう。それから、今日拠点公民館長さんが来ていらっしゃるんですけど、各公民館長としてもどう思うかという答えを出し合って、互いの考えをすり寄せて、7月の答申に向ける、というのが審議会のあり方だと思います。
青島委員	委員は、まちづくりの視点の5つの柱について考えましたので、これ以上考えるのは戻ってしまうことになるのではないのでしょうか。
森田主幹	アンケートにつきましては、再考させていただきます。

(2) 事務局より、資料4、5に基づき、まちづくりの視点に立った公民館事業のあり方について説明

楠谷委員長	今の説明について、そこに書いてないことでも何かご意見あれば、お願いします。
船木委員	まちづくりの視点に立って、今までは公民館事業はしてこなかったのですか。
森田主幹	当然ありましたが、これからより必要となってくるということで大きく取り上げてみました。
加藤委員	私は公民館事業に長く関わっているので、プロのトランペッターによる街中の演奏や、せせらぎコンサート、ここのアトリウムでの桜木中アンサンブル等、具体的な事例が浮かびますが、そうでない方々には「まちづくり」のイメージづくりのために、事例を紹介した方がいいと思います。
楠谷委員長	他にご意見ありますか。付け足したいこと、特に強調したいこと等ありませんか。
加藤委員	「まちづくり」をテーマに掲げていない学習グループでも、皆さんのしていること全部が「まちづくり」につながる活動ですよ、ということをお伝えたいです。趣味の活動でも、掘り下げていけば、みんな社会的課題につながるという

	メッセージが出せれば良いと思います。
長岡委員	資料5は「まちづくりの視点に立った公民館事業のあり方」の流れですね。公民館のあり方が、人づくり→地域づくり→まちづくりと流れていますよね。こうするために資料4の1「個人の学びで完結することなく、学習成果を地域へ還元するためにはどんなことが必要ですか」に続き2、3、4と設問に答えたのですが、地区公民館職員平均4人だけではその流れの実現には難しい、公民館も市民参加型のコーディネーター、ファシリテーターのような制度が導入されるといいと感じました。先ほどのアンケート項目全て必要で重要です。そのためには、私たちはどういう手だてをして、どういうことを検討して、どうしていけばいいかと考えてしまいました。
細見副館長	「まちづくり」という視点で、公民館はどうあるべきか、ということをも市民の視点からどうすれば良くなるか、「まちづくり」そのものというよりも、地域のコミュニティの拠点として公民館がどうあるべきか、というところで皆さんにご意見いただき、こちらでまとめさせていただきたいと思います。
楠谷委員長	他に何かありますか。
鶴見委員	私は公民館活動、まちづくり＝人づくりと考えていいのではないかと思います。公民館で勉強、学習する人をつくり、その人がまちの財産になる、という考え方です。 講座で「これがあるからこれに参加しましょう」ではなくて、例えば、合唱でいうと、楽しく歌ってくれる、その人が楽しかったから、何かしようかしら、となってくれる＝まちづくりのもとになる。ということは、人づくり＝まちづくりになると思うのです。
楠谷委員長	公民館としては、地域をいきいきさせる市民活動を目指さねばならず、全ての住民の学習活動、社会教育の拠点となるには、どうすればいいか。何よりも住民の学習要求を具体的につかまなければならないという面で、人づくりは正論と言えるでしょう。
青木委員	私も「人づくり」に賛成です。今さいたま市は、講座もたくさんあり、サークルの活躍の場は充実していると思いますが、団体や個の中で活躍が終わるのではなく、横の関係、横のつながりを作れるといいと思います。今まですれ違うだけの人が、何かアクションを起こすことによって、挨拶するようになり、温かい気持ちになり、それが地域づくり、まちづくりにつながるのだと思います。個の活動だけでなく、隣にも視点を向けてみようと呼びかけが必要だと思います。
五十嵐委員	私はまだ審議会2回目で、公民館の現状と課題がよく分からなくて、資料4の設問も書けなかったのですが、公民館は、そこにあればいいというものではないと思います。公民館に行かない人、行けない人、必要と思わない人もいるわけですから。公民館は積極的に地域に出て行って、自治会の長なりと直に話をする、地域の特色ある何かを紹介する、開催するなど、営業することが大事だと思います。また、災害の時、公民館は地域コミュニティの拠点として様々な情報

	の発信、避難所の提供等、大まかなところをきちんとやっていけばいいと思います。むやみに細かいアンケートは、いいことではないと思います。
楠谷委員長	ご発言の中にいろいろ課題が出てきているような感じがしました。
船木委員	五十嵐委員、青木委員の意見に賛成です。
柿塚委員	まちづくりの姿勢に学校、地域、行政との連携という言葉がよく出てくるのですが、学校が地域の講座や講習会とかに積極的に参加してくれるように働きかけはなさっているのですか。これは、館長さんの仕事なのでしょうか。
中川館長	学校との連携ということで、各拠点公民館長が今日見えていますが、例えば西区で、中学校の事業である「赤ちゃん幼児ふれあい体験」を受け入れるため、直接学校と交渉して、公民館に中学生が来て触れ合うという事業を進めている館もあります。学校は閉鎖的な所もありますが、一步一步各公民館長は努力しています。
鶴見委員	学校は10数年前までは、開かれた学校という姿勢をとっていたのですが、色々な事件がありまして、今、守りの姿勢をとっているのは無理からぬことなのです。門に警備員がいることが実情の大変な世の中なのです。その中で、学校と公民館で、できることを探してやっていけたらいいですね、というあり方で仕方ないと思います。
青島委員	資料4の設問5、普段、公民館を利用していない人に足を運んでもらうためにはどんなことが必要ですか、について、どうして、公民館の主催事業は平日の昼間ばかりなのか、という疑問があります。これでは来る人が限られてしまうので、もう少し、夜間、週末などに充ててほしいと思います。
細見副館長	きちんと受け止め、検討させていただきます。
楠谷委員長	公民館を利用できない人への配慮をどうするか、それに対する工夫が乏しいのではないかとされます。職員の勤務条件の関係もあり、難しい問題です。しかし、古くから言われてきて、未だ解決できていないということは、大きな重要な問題であると考えます。
加藤委員	市民大学では、早朝出勤前の学習を行ったり、少しずつ手は付け始めているという感じはあります。働く女性が増えている現状の中で、私も青島委員の挙げた問題は欠かせないと思います。 主催事業のみならず、公民館を拠点として学習しているグループ、市民団体との連携について、我々公運審の委員の視点というのも、もう少し論議の中に入れた方がいいのではないかと思います。
楠谷委員長	公民館では主催事業が多すぎるのではないかという声もあり、やはり市民主体の場であることを充分考えながら、今後の運営に当たっていただきたいと思います。 私は公民館に勤めていた当時、「大事なことは、素人に考えてもらえ、難しいことは、玄人にやってもらえ」という言葉を先輩から教えられました。つまり、大事なことは市民から知恵を出してもらい、それを受けて、行政の専門家が難しいことをやっていくのがいいということです。ややもすると、行政の職

	員が、これがいいとやってしまうことが多い、これは間違えだと教わりました。 ご参考までに申し上げます。
--	---

(3) その他

- ・次回は、3月26日（火）13時30分から生涯学習総合センターにおいて開催すること、職員アンケートは、事務局で改めて検討し、案を作成していくことを確認した。

11 閉会